

公の施設目標管理シート（直営）

問合せ先 025-223-7236(中央区健康福祉課)

年度	平成27年度		
施設名	新潟市児童センター	所管部・課	中央区健康福祉課
施設の設置目的	児童センターは、「児童に健全な遊びを提供し、児童の健康及び体力の増進を図り情操を豊かにすることにより、児童の健全育成に資すること」を目的としています。		

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	H27.5.17
歳入	-	正職員	0	修正日	-
歳出	695	非常勤	5	評価日	H28.5.16

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	H24実績	H25実績	H26実績	H27目標					H27結果
1	市民	児童・乳幼児と保護者の来館者数の増加	1日平均来館者95人以上(単位:人)	89.4	89.8	91.6	90	88.5	過去3年間の平均値相等の目標を設定した。	子育て支援の事業や活動の充実日々、月々、年間の統計	小学生の来館者は増加したが、それを上回る割合で、乳幼児・保護者の来館者が減少した。結果、全体としては減少した。	C
2	市民	申込制イベントの参加率の増加	申込制イベント事業参加率90%以上(単位:%)	-	-	-	80	88.6	これまではイベント参加人数を目標にしていたが、実態と合わない点があり、目標を見直した。	来館者への積極的な声掛け 近隣小学校への働きかけ	百人一首やダンスなど、一部に参加率の低いイベントもあったが、おおむね定員に達することができた。	A
3	市民	新規・継続使用団体の確保	年間22団体以上(単位:団体)	18	19	28	22	25	過去3年間の平均値を考慮し、前年度より2ポイント上げた目標値を設定した。	小学校の教育活動への提案や園外保育へのPR	小学校の団体利用は減少したが、幼稚園や保育園の利用が昨年度並みであったために、目標値は達成することができた。	A
4	市民	来館者の満足度	アンケートによる児童センター満足度「とても満足」75%以上(単位:%)	-	75.0	74.2	75.0	74.7	「とても満足」の割合に変更して3年目なので、指標の見直しを行い、5ポイント下げた目標値にした。	12月初～1月初に来館者対象のアンケート実施	目標値には達しなかったが、もともと高い指標であることを考えると、ほぼ達成することができた。	B
5	市民	利用促進のための広報の充実	職員による訪問PRを10回以上(単位:回)	5	7	9	10	11	乳幼児の来館者数やイベント参加人数の減少傾向から、広報活動に積極的に取り組むための目標値である。	市内子育て支援施設等へ訪問広報活動 小学校生活科や園外保育受入のPR	近隣の子育て施設やゆりかご学級・園長会での広報活動を行った。年度途中からは近隣小学校への広報紙配布も開始した。	A
6	業務	災害及び、事件・事故発生時の対応強化による安全安心の確保	万代市民会館全体で行う避難訓練に職員・来館者15人以上参加(単位:人)	11	22	17	15	5		勤務時間やイベントなどの調整 来館者が協力しやすい体制づくりや働きかけ	避難訓練への事前周知や当日の利用者への呼びかけが不十分だったため、想定数よりも参加者が集まらなかったため。	C
7	業務	学生ボランティアの確保	年間30人以上(単位:人)	36	50	52	45	74	年度ごとに学生が入れ替わることから、過去の実績よりも低く設定した。	ボランティア登録制度 大学のボランティア担当窓口への働きかけ	大学や専門学校のボランティア担当者へ積極的に働きかけた結果、多くの学生ボランティアを確保することができた。	A
8	人材	地域組織活動グループとの連携	連携事業参加人数平均25人以上(単位:人)	27.5	26.1	24.1	25	23.7		連携強化のための相談や話し合い すみ分けや役割分担明確化による事業の充実	児童育成万代クラブとの連携や情報交換は円滑に進めることができた。参加は他のイベントとの重なりや悪天候等で減少した。	C
9	人材	職員の自己改革や意識改革	研修会等へ職員の参加(平均1人1回 計5回以上)(単位:回)	7	8	9	8	9	研修の機会の減少や出張にくい体制であるが、過去3年間の平均値相等の目標値を設定した。	研修会への積極的な参加 自主研修の奨励	近隣の子育て支援施設を訪問し、施設見学や情報交換を行った。児童センターの施設設備や運営等を振り返る機会となった。	A

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価(評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<p>運営課題と向き合い、自らの資質向上に努めるとともに、地域組織活動グループや小学校、他施設と連携し、来館者の確保や事業の充実に努めます。また、日々の施設遊具の点検や遊びの見守りを確実にを行い、安全安心で健全な遊びの場を子どもたちに提供します。</p> <p>口コミによるはじめての来館者が多数います。「施設の広さや活動の充実度」「遊具の種類の多さ」「遊びの多様性」「一人一人とかかわりながら具体的なアドバイスに努める職員の対応」「イベント参加時の楽しさ」等に加えて、「年齢差や学校枠を超えてかかわり交流できる児童センターの良さ」を味わってもらえるように、日々、心のこもった丁寧な対応に努めます。</p>	<p>平成27年度の1日平均来館者数は、2.1ポイント減少し、わずかではあるが、過去5年間で一番低い数値になった。特に、毎日のように来館した乳幼児親子の減少や、地元小学校児童の減少が目立っている。その要因としては、「市内各区に子育て支援センターが開設し、わざわざ児童センターに行かなくても身近なところに居場所ができたこと」「ひまわりクラブの対象が6年生まで拡大したり、ふれあいスクールの事業が充実したりしたこと」などが挙げられる。</p> <p>平成28年度は、他の施設にはない児童センターのよさや持ち味を市民・幼児児童に発信し、児童センターの楽しさや健全な遊び場であることを知ってもらえるように努めていく。特に「2～3歳の活動的なときに、存分に体を動かせたり自転車に乗ったりすることができること」「他校や異学年の児童が仲よくなされること」「天候を気にせず遊ぶこと」などを広報していきたい。</p>